

下関市総合計画審議会
第1回「賑わい・地域部会」 議事概要

日 時	平成 31 年 4 月 23 日（火） 13：30～15：00
場 所	下関市役所本庁舎新館 5階大会議室
出席者	下関市総合計画審議会委員 9名（欠席者3名） 下関市総合計画策定委員会 事務局（下関市総合政策部企画課）

【次第】

- 1 部会長・副部会長の選任
- 2 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）について

1 部会長・副部会長の選任

部 会 長：水産大学校 鷲尾代表

副部会長：下関観光コンベンション協会 富永会長

2 第2次下関市総合計画後期基本計画（素案）について

部会長

事務局から、素案の序論について説明をお願いしたい。

事務局

（序論の説明）

部会長

序論の説明を頂いた。前期基本計画のおさらいともなるが、意見をお願いしたい。（意見なし）

特に意見はないようである。この先各論に入るが、関連することがあればその時にも質問は引き受ける。事務局から第1章の説明をお願いしたい。

事務局

（第1章の説明）

部会長

第1章は多様な内容だが、ご意見やご質問があったらお願いしたい。

委員

素案の中で「人口減少」という言葉が多く登場するが、下関市の人口目標が明確になっておらず、よく分からない。

人口目標の設定については、パターンが4つある。人口が減るのが分かっている中でそれなりのことをするのか、減るスピードをできるだけ抑えるのか、減るのは分かっているがこれ以上減らさないという心意気を示すのか、減らすのではなく人口増加の思いを出すのか。どのパターンを将来的にイメージしているのかが、文章からは分からない。文章として書きにくいと思うが、序論から将来的に夢のある文章にできないのか。減るスピードを抑えるという書き方よりも、どんどん人を増やすという書き方であれば、後期基本計画に前向きに取り組めると感じる。

部会長

人口については、関係人口という新しい言葉が定義されている。定住人口や交流人口は分かるが、関係人口は、今一つ市民にはピンとこないのではないか。先の質問と合わせて事務局に説明願いたい。

事務局

人口減少の受け止め方については改めて検討したいが、4年前の「まち・ひと・しごと総合戦略」の人口ビジョンでは、人口が減っていく状況を踏まえた上で、「人口減少のスピードを抑制する」取り組み、「人口減少であってもまちの活性化は保つ」取り組みについて触れている。今回の後期基本計画は、5年前の計画を継承するものでもあるので、そこも含めて検討したい。

関係人口は、地域に色々な形で関わっていく人のことを指す。下関市に親戚がいるとか、かつて住んでいた人など、下関市に何らかのルーツがある人である。こうした人々を下関市の活性化のために取り込みたいという思いで、記載した。

委員

例えば序論の1頁には、「毎年2,000人を越える人口が減少」、「2060年には人口が15万人を下回る」というインパクトが強い言葉がある。今後、行政の努力により仮に2060年の人口が16万人となったとしても、あまり評価されないと思う。行政がどういう施策をとってどこまで心意気を示すのか。人口推計が15万人なので16万人を目指すのか、それとも何とか今の人口を維持するのか、というようなことが見えてこない。「一生懸命頑張っているけど、人口は減る」という内容だけでは、施策に前向きに取り組めないのではないかと懸念する。現状は人口減少ではあるが、どこまで後期基本計画に前向きに取り組めるか。その辺の文章についてなんとか考えてほしい。

部会長

関係人口の絡みでは、ふるさと納税制度の初期であれば納税者を関係人口に取り込む可能性はあったが、現在は納税制度に水を差されている状況なので、今後はあまり期待できないだろう。

また明石市は、30万人を切っていた人口が30万人に戻りつつある。定住人口が回復している中核市が存在するのだから、明石の取り組みを調べるのが、先の問い（将来人口は15万人でよいのか）にもつながる。そのあたりもご検討頂きたい。

人口減少の問題以外での観点で、ご意見をお願いしたい。

委員

あるかぼーと開発と総合計画との関係は、後期基本計画のどこに示されているのか。あるかぼーと開発と総合計画は相互に関係しているはずなので、あるかぼーと開発の総合計画での位置づけや、総合計画の文脈の中で、あるかぼーと開発が下関市に及ぼす影響や開発事業者が選択された理由などの記載が必要と思う。

あるかぼーと開発の事業者選定について、何らかの反映が総合計画でされているのか。どこで読み解けばよいのか。

事務局

第1章は、観光交流やコンベンションについて触れている章。ホテルによって宿泊者数を増やす、といったあたりで触れている。賑わいをつくる部分についても、あるかぼーと開発が関係している。直接的ではないが、商業振興など結びつくことについては、色々と書いている。

委員

あるかぼーと開発の事業者として、この事業者を選定しました。何故ならその理由は、、、、ということが総合計画に書いてないと、市民は納得しないのではないかと。

事務局

事業者を選定した直接的な理由については書いてないが、第5章16ページの「まちづくりと一体となったウォーターフロント開発」の部分は、直接的に結びつく部分である。どちらのホテルを選択したかについては書いていない。

委員

開発事業者の提案が現時点では最適であったという理由が共有できている方が、これからのまちづくりの取り組みにとってはよいのでは、という考えで質問した。

部会長

前計画では「定住自立圏共生ビジョン」が書かれていたが、後期基本計画の素案では「連携中枢都市圏ビジョン」と改められている。これらの違いは、どう理解すればよいか。

事務局

平成 28 年に策定したのが「連携中枢都市圏ビジョン」であるが、国の計画によって変更したものである。

部会長

下関市のサイズや中心市街地を考えた時の位置づけとしては、この変更は分かりやすく理解できる。しかし、旧 4 町を含めた広範な市域のことを考えると、従来の「定住自立圏共生ビジョン」から「連携中枢都市圏ビジョン」に移行したことは、中心部に焦点を絞るイメージがある。

下関市総合政策部

「定住自立圏共生ビジョン」がバージョンアップしたものが、「連携中枢都市圏ビジョン」である。どちらのビジョンも下関市としては、市全域での連携による発展を目指したものと位置づけている。「下関市全域」が対象であることについては、変っていない。

部会長

その他、文化や観光の点でご意見をお願いしたい。

委員

情報発信という言葉が素案の様々な場所に出てくる。行政の場合、担当課は違っても情報発信としてやることは一緒だと思う。広報や情報発信については市全体で連携しているなど、情報発信に関する記述をまとめてくれると分かりやすいし安心する。情報発信については、担当課ごとに記載を分けなければならないのだろうか。

事務局

どのようにすればまとめて記載できるか、ということについて今はアイデアはないが、記述を分けなければいけないということではない。現在の章立てで後期基本計画の素案を作成する中で、どの章でも情報発信したい内容があるため、それぞれで表記したいという思いがある。一つにまとめるアイデアは無いが、何らかの検討はしたい。

委員

情報発信について、バラバラのイメージがあるので、行政として一体となった情報発信

をやっている等の連携について、文章の中で書いてもらえれば、分かりやすいと思う。

部会長

情報発信の記述の方法については、是非工夫して欲しい。

同じ事が多文化共生・多言語化についてもいえる。災害時にボランティアの方が動く時の共生もあれば、留学生を如何にこのまちに受け入れるかという意味の共生もある。縦割りではなくうまく横串を差す形で、共通の情報源にたどり着けるような工夫についても記載を検討して欲しい。

委員

大学で留学生アンケートを取ったので、参考になるか分からないが報告する。22人の留学生が対象だが、「下関が好きか」という問いに対しては、好き=11人、少し好き=9人、好きではない=2人であった。

「どんなところが好きか」という問いに対しては、東亜大学はベトナム人の留学生が多いが、田舎から来たベトナム人は賑やかなところ、都会から来たベトナム人は静かなところと回答した。他には、観光や美味しい料理があるなど。好きではない理由としても、賑やかなところ、静かなところという回答があった。

「どこに行くか」という問いに対しては、海（海響館のあたり）、トライアル（東亜大学近くに立地し、安い）、お寿司など。

「卒業しても下関市に住みたいか」という問いに対しては、はい=12人、いいえ=10人。半数以上が、下関に住みたいとする回答だった。

「どんな仕事に就きたいか」という問いに対しては、勤務希望先はホテル、観光業、飲食関係の会社、介護関係の仕事などの回答があった。下関で就職先があれば、住みつづける可能性がある留学生が存在する。留学生が下関に住み続けるためには、他には住宅の確保や秋卒業への対応が必要。就職先の提供、住宅の保証という条件を満たせば、留学生は家族を含めて下関に定住してくれるのでは、と感じている。

部会長

ありがとうございました。素案では、下関市立大学のことは記載してあるが、他の4大学を含めた大学間の連携などについても触れていただければ、私どもも色々協力できる。

文化面について、ご意見をお願いしたい。

委員

文化面については、文章的には的確で大切なことが盛り込まれており、これが全て実現したら素晴らしいと感じている。基本計画の中では、この内容でよいのではないかと感じている。

部会長

第8章について事務局から説明をお願いしたい

事務局

(第8章の説明)

部会長

ありがとうございました。第8章についてご意見をお願いしたい。

市民活動センターについては、指定管理者制度に移行したと説明を受けたが、施設内での活動のみへの対応だと小さな視点になる。市内の幅広いニーズへの対応や、市域全体の活動推進に資するような活動も織り込んで欲しいと感じた。

また、8章の最後の方では行財政健全化の中で「内部統制」について記載しているが、全国で様々な不祥事が発生する中で、このような内部でのチェック体制について触れているのは重要なこと。行財政運営の市民に対する透明化を図って行って欲しい。

委員

新たな財源確保は重要であるため、もっと積極的に取り組むべきと考えている。行政の場合は予算範囲内での事業の執行を考えがちだが、民間は「足りない資金をどう集めるか」という視点から動く。行政も「足りない資金は別から調達する」という発想を持ってほしい。新たな財源確保については、もっと積極的な文章にできないか。検討をお願いしたい。

部会長

積極的に動こうとしても、資金がなければどうしようもない。現在の下関の資源をどう活用していくのか、ということが課題だと感じる。

委員

住民自治によるまちづくり、これはどういう意味で使っているのかについて知りたい。どのように整理をしているのか。

下関市市民部

財政的な状況や高齢化の進展などにより、行政が細かいところまで目配せすることが難しくなるので、その部分については、市民の皆様自らが、地区別の課題を自ら解消して欲しいという思いで使っている。

委員

「官」は儲ける意識を持った方がいいということだが、私たちもそう感じる。何かの事

業に予算がついても、その取り組みは単発で終わることが多い。一方、民間は自社の経済的価値の追求ばかりをしており、差別化に至らず泥沼の競争が続いている。

一方で、世界的な企業は社会的課題の解決を将来のネタにする。社会課題の解決を社会的価値の向上に繋げ、そこから収益を取って徐々に経済的な価値を高める。こうした企業が業績を上げている。根本的には国連の SDGs が影響している。

後期基本計画の中には、SDGs の考え方も入っているのか。

事務局

環境について触れている第4章の中には、既に入っている。SDGs は環境だけではないが、後期基本計画の素案では、環境以外の部分ではまだ触れていない。触れ方は今後検討したい。

委員

世界の投資家は SDGs に関心を持っている。この流れは変わらないだろうから、官も民も頭の中に入れておく必要があると思う。

部会長

SDGs も含め、現在は国際的な指針が大きく変わっている時代。これらの動きを市政に織り込んでいくことは、環境面だけではなく他の分野でも重要。反映できるところは反映して欲しい。

事務局

今日いただいた意見を踏まえて、素案を修正して、それをまたお見せしてご意見をうかがうという形で議論を進めたい。

委員

公募委員で参加させて頂いている。住民自治によるまちづくりの最初の立ち上げから関わっていた。今は離れているが、菊川町の事務局長をやっていた。

市民が自主的に連携して実施していた事業に対して、市が資金を投入してまちづくりを進める（まちづくり事業）ことを繰り返すと、行政の資金ありきの事業となり、住民自治としての意識が薄くなるのではと感じている。まちづくり事業は良い事業とは思いますが、事業の立ち上げを知らない途中の段階から資金が入るので、結果的に事業は持続しないのではと感じる。

人口減少については、人口減少をベースにしたコンパクトシティ作りやその説明を以前受けたが、この時の説明と、この基本計画の人口減少について接点がよくわからない。

委員

公募委員で参加させて頂いている。発言の際には具体的な提案あってこそその意見をしたいが、具体的な提案を思いつくことができなかつたため、今日は発言できなかつた。

こういう場に参加して頂きながら失礼だが、まちづくりについては、審議会や協議会などではなく、他の場所で面白い取り組みが始まっていると感じる。後期基本計画では、より町が面白くなっていくような、話し合いの場を支援するような計画になればよいと思う。

委員

下関市女性団体連絡協議会の会長をしている。

これまで下関市女性団体連絡協議会として、30年近くまちづくりに関わってきた。地域の中で、子どもから大人、高齢者を交えながらまちづくりに取り組んでいる。

外国から来た方の住む場所がないというが、100円市には、外国人の方が自転車で朝早くから買い物に来ており、こうした方々にも声掛けをしている。こうしたことを続けていけば、下関市は明るい街になるのではないかと感じている。

部会長

委員の皆様、それぞれにそれぞれの視点があることが確認できた。部会としての意見をまとめていきたい。本日はこれで終了したい。進行を事務局に返す。

事務局

次回は、本日の議論を踏まえた課題の対応策をお示しするので、意見を頂きたい。

専門部会は月1回開催を予定しており、5月中に1度、6月中に1度開催する。7月中にも開催するかもしれない。

部会長

皆様お忙しいと思うが、ご協力お願いしたい。

以上